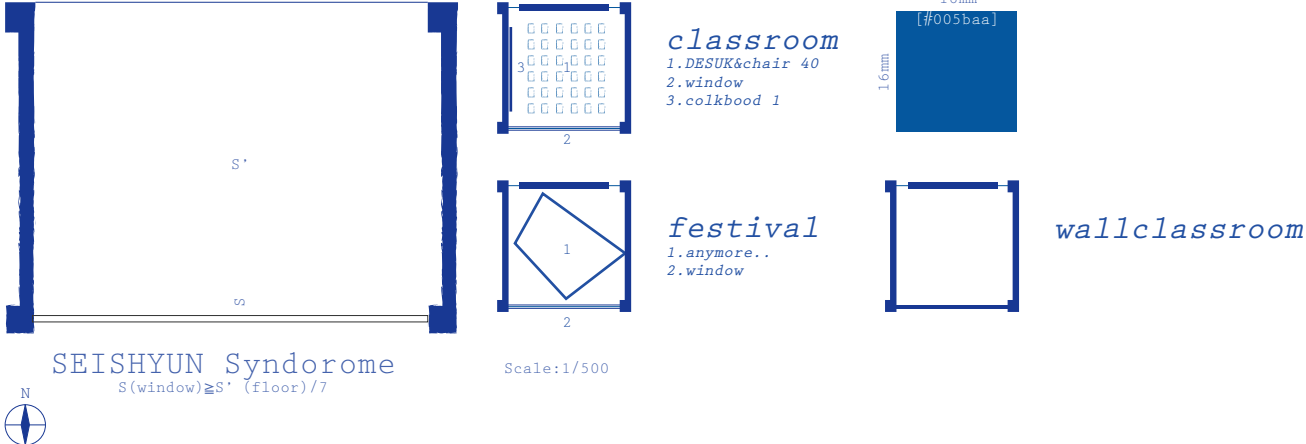
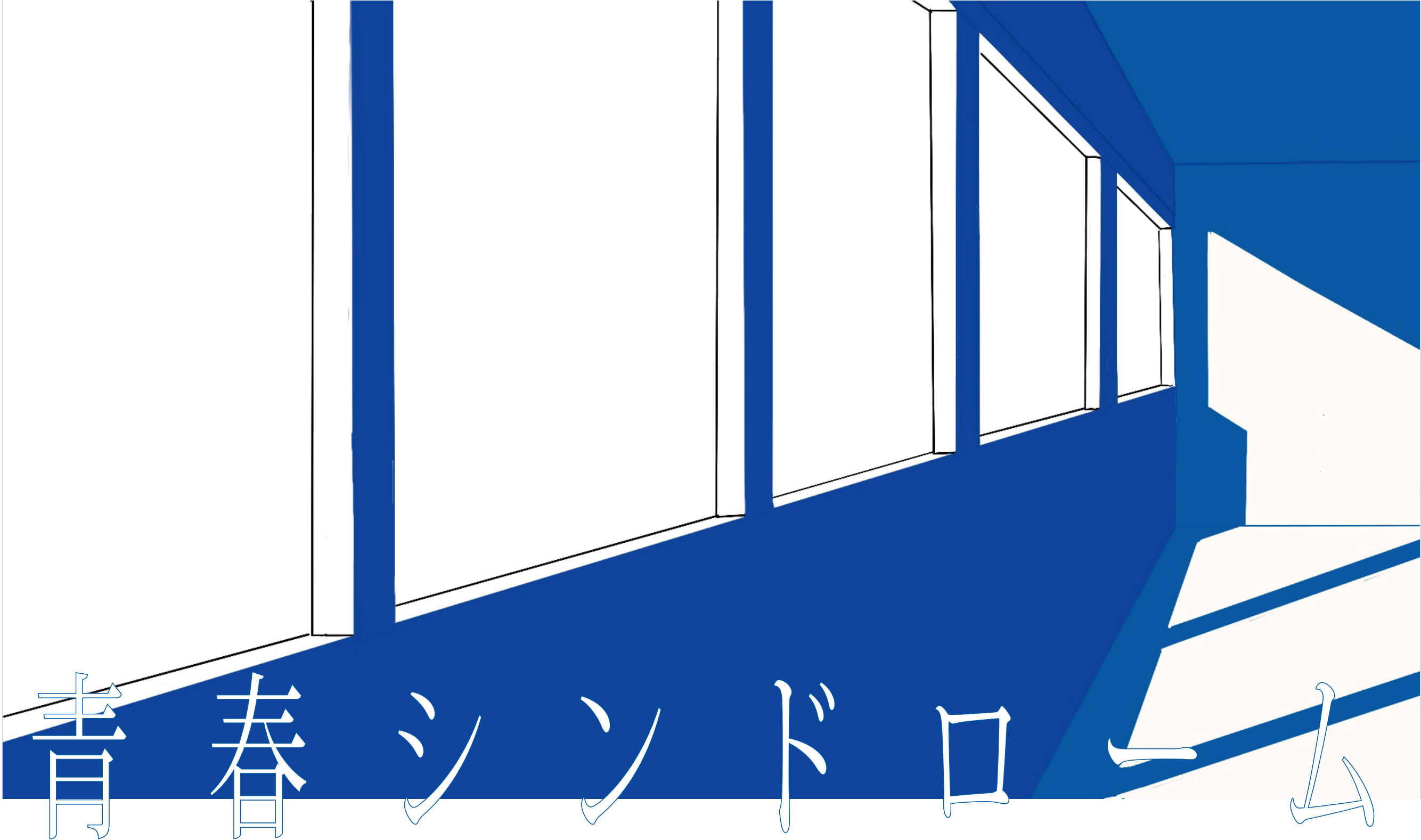




学園美学 青春の記憶の投影

木の香りや滴る雨水のリズム。「和」はただ単な物質ではなくある要素から想像で環境を構築可能な、一連の状況を指すのではないか？ならば夕焼けや金管楽器の音色など豊かなノイズを連れてくれる「教室」にも、私は名もなき「和」を覚えた。ではその教室たらしめる要素とは何か？例えば文化祭のように実は机や黒板は教室らしさに寄与しない。だが窓を無くすと「学習塾」のような重苦しさを表した。この推測から1/7以上の開口を要する教室の「窓面積」と「床面積」の関数の秩序に我々は青春の記憶を投影しているのではないだろうか。私はこの関係を「学園美学」と名付けた。